



第56号

発行所
三軒屋駐屯地協力会
三軒屋駐屯地OB会

教育訓練基盤構築

- 訓練で使用する演習場の手入れ等を行うもの。
- 機能向上及び機能維持が目的
- その場を活用し、隊員の指揮能力や交通作業能力等の向上を図る。

レゾリュート・ドラゴン25

- 米海兵隊との共同で行われる実動訓練
- 国内で行われる米海兵隊との共同訓練の中では最大規模
- 島嶼防衛を想定した大規模な訓練
- 日米の連携強化及び共同対処能力の向上を図る。

施設隊は9月15日から27日までの間、九州地方において、レゾリュート・ドラゴン25への参加及び小隊検閲を実施しました。



直支隊および施設隊は10月2日から11日までの間、あいばの演習場において実施された教育訓練基盤構築に参加しました。



本訓練ではレゾリュート・ドラゴン25の場を活用し、第1小隊訓練検閲を実施して、訓練の成果を評価・判定し、その進歩向上を促すことが目的です。



九州までの長距離移動にはじまり、陣地構築や障害構成など様々な訓練を行いました。練度向上に努めました。

三軒屋所在部隊の活躍

弾薬交付訓練

- 弾薬を使用する部隊に対し、弾薬を正確かつ円滑に交付するための訓練



西部方面隊実動演習

- 西部方面隊が主体
- 九州地域の安全を確保するための訓練



支処は9月17日、三軒屋駐屯地において弾薬交付訓練を行いました。
安全確実かつ迅速整齊に部隊に弾薬を交付できるよう、綿密な計画を建て事前準備及び本訓練を行いました。



施設隊及び直支隊は10月下旬から11月初旬までの間、九州地方において、西部方面隊実動演習への参加及び小隊検閲を実施・支援しました。

三軒屋のあゆみ

三軒屋駐屯地が所在する岡山市北区宿、この地についてはるか昔に遡って紹介したいと思います。

古墳の眠る丘

古墳時代～明治40年

▼古墳時代

今の三軒屋駐屯地のあたりには、かつて数多くの古墳が点在していました。とくに半田山植物園付近にあった「一本松古墳群」は、鉄製の農具が出土したことで知られる前方後円墳。後円部の頂上は戦時中に高射砲陣地を作るため大きな穴があけられました。が、竪穴式石室がありました。このことから、古墳時代にはすでに人々の営みがあったことがうかがえます。

出土した副葬品の一部は東京国立博物館に保管されています。

▼江戸時代

やがて時代は流れ、江戸期。この地に三軒の農家が移り住み、田を耕して暮らし始めました。それが「三軒家」という名のはじまりと言われています。

陸軍の時代

明治40年～昭和

▼明治40年

岡山に第17師団誕生
現在の岡山大学の場所に陸軍第17師団が置かれ、現在の駐屯地周辺は射撃場や築城訓練場として整備されました。

観に行ける！旧陸軍の有形文化財



旧岡山偕行社
(山総合グラウンドクラブ)

場所：岡山県総合グラウンド
旧陸軍の将校の社交場でした。



旧陸軍第17師団司令部衛兵所
(岡山大学情報展示室)

場所：岡山大学津島キャンパス
警備や監視のために使われていました。

▼大正14年

歩兵第10連隊が移駐
軍縮により第17師団が廃止され、姫路から歩兵第10連隊がやってきます。終戦まで工兵部隊も駐屯していました。

兵器廠・三軒屋部隊の誕生

昭和14年～20年

▼昭和14年

事故が新たな拠点を生む
大阪の牧方出張所で爆発事故が発生。これにより、火工作業場をより安全な地に移す方針が決まります。山に囲まれ、民家も少なく、鉄道の便もよい。

そんな条件を満たしたのが、現在の駐屯地がある牧石村三軒家でした。報告書の誤記により、ここから「三軒屋」という表記が定着します。

▼昭和15年～20年

戦時下の三軒屋
昭和17年3月に火薬庫と工場が概ね完成。
やがて法界院駅から三軒屋までの鉄道引込線が開通し、弾薬輸送が便利になりました。また、職員や勤労奉仕者の通勤のための臨時列車も走るようになります。



写真左側と右側がプラットホームだった箇所。撮影は平成中期ですが、現在のこの場所は整備工場になっています。

戦後の転換期

昭和20年～30年

▼米軍・英印軍の駐留

終戦後、弾薬整理を終えた跡地にはまず米軍が進駐。1個大隊ほどの部隊が現在の岡山大学農学部付近を中心に、旧兵器や刀剣の収集・処分を行いました。

その後は英・印連合軍が引き継ぎ、昭和24年まで駐屯。旧兵器廠の建物をそのまま兵舎として使いました。

▼教育と畜産の拠点に

昭和22年、牧石村が跡地の一部を買収し「牧石中学校」を設立。翌年に移転・開校し、地域の子どもたちが通いました。しかし昭和31年、岡北中と統合されその役目を終えます。

同じころ、県の「種畜場」もこの地に移転。広大な敷地に乳牛や馬、豚、鶏、あひる、やぎが飼育され、実験や研究の場として賑わいました。

やがて昭和31年、自衛隊用地への転用に伴い久米町旭町(現在の久米郡美咲町)へ移り、総合畜産センターとなりました。

ほかに転用されるまで、近所の人々が田畑として使っていました。

そして自衛隊へ

昭和30年～現在

▼駐屯地へ昇格

昭和30年4月「水鳥駐屯地三軒屋分屯地」および「三軒屋弾薬支処」が発足。

2年後の昭和32年9月、分屯地から「三軒屋駐屯地」に昇格し、現在に至ります。



昭和38年8月に撮影された駐屯地内

古墳時代の集落から、明治の軍事拠点、昭和の兵器廠、そして戦後の教育・畜産を経て防衛拠点へ。

三軒屋は、時代ごとに姿を変えながらも、人々の営みとともに歩み続けてきました。三軒屋駐屯地は今年で創立70周年。これからもこの地に息づく歴史と伝統を受け継ぎ、平和と安全を守る使命を果たしていきます。

フォトニュース



＜基通隊＞ 7月
格闘検定



8月
ふれあい納涼盆踊り



＜支処＞ 9月
新隊員後期教育修了式



＜支処＞ 10月
弾薬管理換

支処衛生科

神原 2曹

見島富士「常山」

玉野市最北部、岡山市との境に位置する「常山」という山をご存じでしょうか？標高307mと高くはありませんが、別名「見島富士」と形容されるほどの雄姿は、毎日見ている私でも見飽きない美しさです。今回は、我がふるさと玉野市が誇る常山の紹介をいたします。

常山は私の母校である小中学校の校歌にも登場するほど地元で愛される山ですが、思いのほか市外の高校の校歌にも登場するほど、岡山県南では知られる山です。県外出身者の皆様におかれましては、もしかしたら「県有数の心霊スポット」として認知されている場所ではないでしょうか？メディアでも数多く取り上げられています。いえいえ、誤解です！決してそのような忌まわしいところではありません。歴史、城、古戦場が好きな方には堪らない、魅力あふれる風光明媚な山なのです。

戦国時代、常山には「常山城」というお城がありました。天正3年、城主上野隆徳率い



る軍勢およそ100、対する毛利軍6000という不毛な合戦にて、隆徳軍は抵抗しますが勝算なしと自決をします。隆徳の妻・鶴姫と侍女34名は男衆亡き後も、甲冑を纏いて太刀を脇に、毛利軍大将乃美宗勝と相対しました。結果はいかに……？今は静かに、「女軍の墓」として城跡に祭られ、武勇伝は後世に語り継がれています。

今年落城450周年という節目を迎えるにあたり、地元有志を集め、「常山城を語る会」が発足されました！前述の通り、とにかく常山が好きなお人、歴史や史跡・戦が好きなお人が集まって、見識者からご講義をいただく会です。その伝承者もご高齢により、存続が危ぶまれる中、我々が後継者となるべく立ち上がりました！少しでも興味を持たれた方、記念すべき500周年に向け、一緒に楽しく「常山」を勉強しませんか？

歴史の証人

三軒屋の歴史を振り返る

三軒屋弾薬支処

矢延事務官

私が入隊した昭和55年はこの駐屯地が創設されて25周年、四半世紀に及ぶ記念すべき節目の年でありました。それからおよそ半世紀の45年が経過し今年、創立70周年を迎える記念すべき年にあわせて私も無事に定年退官を迎える事ができました。そこで三軒屋駐屯地の歴史を振り返って見たら最初に脳裏を過るのが入隊当時の駐屯地の景観で周囲は山に囲まれた盆地に木造平屋の建物ばかりが点在していて、コンクリートの建物といえば唯一2階建の本部庁舎だけがアルプスのごとく聳え立っていたこと。またその周辺の一角には佐官用の官舎が2棟だけあり、そこから小中学生の子供たちが通学のため朝・夕、警衛所の前を元気に「いってきます」「ただいま」と言えば上番警衛から「いってらっしゃい」「おかえり」と返答しているその場の雰囲気がとても平穏のどかで今でも目に強く焼き付いている暖かい光景でした。

さて駐屯地の歴史に目を向けて見ると毎年、ふれあい納

涼盆踊り及び三軒屋駐屯地記念日行事がコロナ禍を除いて行われていていつも来場者と隊員とのふれあいが感じられる絆の場となっており、また、幾多の歴史の中で一番激動の時と思われたのが西日本豪雨で三軒屋が災害派遣拠点駐屯地となり、各地から猛者の中派遣された災害派遣部隊がグラウンド全面にテントを張り体育館にはところ狭しと野外ベッドが敷かれ屋外の大型テントには支援物資などが積込まれたり、給油所では車両が列をなすなどまるで戦場のような異様な光景が一月月以上も続いた中、被災者を含めた部内外の方々からも激励を受け無事に任務を完遂できたことです。

これから三軒屋は国の防衛力の抜本的強化によって継戦能力が求められ火薬庫の新設及び関連施設等の調査・建設が始まり、ますます三軒屋駐屯地の重要性が高まるため各部隊専門的任務が遂行できるよう修練しつつ関係機関との連携は密にし、隊員一同、明るく爽やかな笑顔で地域の皆様から、より一層信頼され愛される駐屯地を目指しましょう。

中SAM発射試験に参加して

三軒屋弾薬支処

吉田2曹

6月14日から9月8日までの間、アメリカ合衆国ニューメキシコ州ホワイトサンズミサイルレンジで実施された令和7年度03式中距離地对空誘導弾（改善型）のフライトテストに射撃支援隊の弾薬係として参加しました。

初めての海外勤務ということもあり、不安な面も多々ありましたが支援隊長以下、上司・同僚からのご指導ご協力により無事に任務を達成することができました。

支援業務中は米軍担当者調整することもあり、私の拙い英語能力では言うのも聞くのも苦労しました。その度に英語能力の必要性を痛感し、遊び惚けていた学生時代の自分を恨みました。今後は少しずつでも英語を勉強していこうと思います。

最後に今回のフライトテスト支援で03式中距離地对空誘導弾（改善型）の射撃に携われただけでなく、日本とは違う文化や価値観に触れることができ、多少なりとも成長することができたと感じます。今後、このような事業がある

お知らせ

三軒屋駐屯地 創立70周年記念行事



11月22日 土
10:00 - 14:00
(開門 09:00)

09:00 開門
10:00 記念式典
10:55 装備品展示
11:30 体験試乗
14:00 閉門

各種行事の続報・詳細は三軒屋駐屯地ホームページにて、逐次更新予定！



モニター募集

三軒屋駐屯地では令和8年度の駐屯地モニターを募集しています。
(協力会員・OB会員を除きます。)
くわしくは駐屯地ホームページでご確認ください。

三軒屋駐屯地
ホームページ



03式中距離地对空誘導弾
全長 約4.9m
胴体直径 約0.32m
重量 約570kg
製造 三菱電機



出典：陸上自衛隊ホームページ

場合は積極的に参加していきたいと思えます。